

苦情事例登録用紙

登録 No. NI-18- 016
登録日 2019 年 9 月 20 日

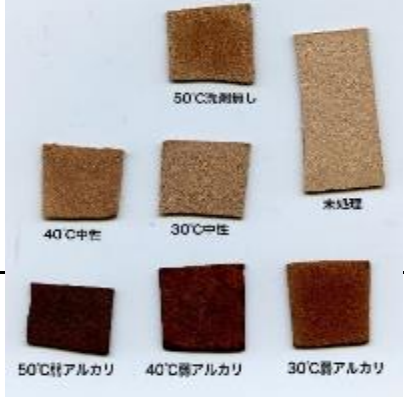
商品名	ポロシャツ	分類Ⅰ	婦人	分類Ⅱ	外衣	分類Ⅲ	織物	分類Ⅳ	染色	分類Ⅴ	ドライ	苦情原因・ 現象の分類	汚染	
表示事項	組成 表地 綿100% 別布部 綿100%	取扱い				付記用語		・衣料乾燥機の使用は、お避けください。 ・オフホワイト、生成色、淡色物は蛍光増白剤入り洗剤を使用すると変色することがあります。		サイズ		原産国		
											その他			
苦情内容	(消費者□アパレル) ゴルフの後、カットソーを丸めてバッグに詰め持ち帰った。洗濯後皮革スライダー近くの生地が茶色くなっているのに気が付いた													
外観	スライダーには非常に柔らかな“ヌメ革”と呼ばれる材料を使用している。前立て部分に茶色い汚染が見られる(図1)													
聞き取り・調査結果	①商品の外観 ・“ヌメ革”とは植物タンニンで鞣し、型押しなどの表面加工をほとんど施さずに仕上げた革 ・クレーム品の皮革スライダーは、元の色に比べ濃色化している(図2) ②着用/取扱い状況 ・汗に濡れたまま、丸めてバッグに詰め持ち帰った。スライダーは汗に濡れてしまったのかも知れない ③素材 ・ポロシャツではなくアウターでは1～2年の使用実績があったため、染色堅ろう度試験は行っていなかった。ただしアウターはすべて濃色で、皮革スライダーから移染しても目立たなかったかも知れない ・販売前に洗濯試験(103法1回、吊干し)を行ったが問題はなかった。洗濯試験での吊干しの際、皮革スライダーは図1のように身生地から浮いた状態になっており、身生地への移染が発生しなかった可能性がある													
検討事項	①着用/取扱い状況 ・皮革に使用された鞣し剤は中性洗剤に比べ弱アルカリ洗剤で溶出しやすい(参考写真) ・取扱絵表示に“中性洗剤使用”の付記がされておらず、不適切といえる ②材料、染色方法 ・植物タンニン鞣しはクロム鞣しと比べ皮革コラーゲンとの結合が弱いため、水分で溶出しやすい ③試験・分析 ・鞣し剤の特性や白いポロシャツに使用することから、水・汗・洗濯等の染色堅ろう度試験は必要												(参考写真) 水洗い後の革試料裏側の変色状態 ※関西繊維商品めんとてなんす研究会資料参照	
														
苦情原因	①ヌメ革(植物タンニン鞣し)の鞣し剤が水分の影響を受けて溶出した ・皮革スライダーに使用された材料は植物タンニン鞣しを行ったものであり、皮革コラーゲンとの結合が弱く、水分の影響を受け鞣し剤が溶出した。長時間汗に濡れた状態にあったこと、さらに水洗いされたことにより鞣し剤がしみ出し身生地に移染した												< 苦情部分の写真 >	
今後の対策	①テキスタイル ・鞣し方法や染色、仕上げ方法(アニリン仕上げ等)の情報をアパレルに提供する ②アパレル ・白いポロシャツの引手に使用することを資材メーカーに伝え、皮革の加工内容を確認する。皮革の特性にそった堅ろう度試験を行う ・スライダーの表示は任意ではあるが、取扱い上の事故を防ぐため「天然皮革のスライダーを使用」などを付記して、商品の特性をお客様に伝える ・当該商品の皮革スライダーは取り外しが可能な作りになっていた。「洗濯の際は、スライダーを取り外して洗ってください。」などの取扱い注意表示を付ける ・「中性洗剤使用」を付記する ・風合いはやや硬くなるが、洗濯性能を考慮して材料を合成皮革に代える ③販売 ・販売時にも皮革材料は色落ちしやすいことをお客様に伝え、注意喚起を促す													
その他	トピックス													

図1 苦情品の外観

図2 原品 事故品の外観